目撃情報の活用による竜巻注意情報の改善

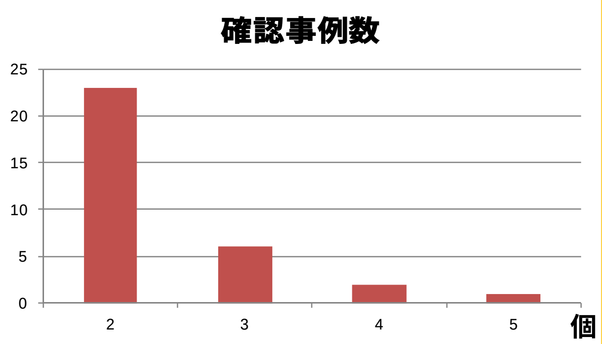
竜巻発生を覚知した場合、更なる竜巻発生の可能性

1つの竜巻が発生した場合に、同一府県又は近隣の府県で他の竜巻が発生した複数竜巻の事例（2000年～2012年）

※集計対象：　同一府県又は隣接する府県で、最初の竜巻から6時間以内に別の竜巻が発生した場合

- **32事例、計77個の竜巻**

→同期間中に確認した竜巻（238個）の約3割



複数の竜巻が発生した事例における確認数の度数分布（2000～2012年）

竜巻発生から次の竜巻発生までの時間差
（複数竜巻32事例の内訳）

竜巻発生から10分で竜巻注意情報を発表できると仮定すると、193事例（単発竜巻161事例+複数竜巻32事例、2000年～2012年）のうち27事例で後続の竜巻を事前に予測可能。適中率にして約15%（従来は約5%）。

＜効果＞

- **目撃情報の活用により、発生から短い時間で発表することで、従来の竜巻注意情報に比べて高い確度で予測が可能**
- **「竜巻注意情報」では、竜巻発生の目撃地域を天気予報に用いる「一次細分区域」で発表し、一層の注意喚起**

目撃情報を活用した情報文例

○○県竜巻注意情報　第○号

平成２×年○月△日１２時35分
○○地方気象台発表

【目撃情報あり】○○県南部で竜巻などの激しい突風が発生したとみられます。
○○県は、竜巻などの激しい突風が発生するおそれが非常に高まっています。

空の様子に注意してください。雷や急な風の変化など積乱雲が近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。
落雷、ひょう、急な強い雨にも注意してください。
この情報は、△日１３時５０分まで有効です。

「竜巻等突風対策局長級会議」報告（平成25年12月26日）の別添資料を一部修正